

九州大学における大学評価情報室 と評価情報データベースシステムの 展開

九州大学 大学評価情報室
副室長 関口正司

0 . 目次

- 1 . 経緯と現状
- 2 . データベースシステムの概要
- 3 . データベースシステムの運用
- 4 . 今後の展開と課題

1. 経緯と現状

- 1998 (H 10) 「教員の研究教育活動報告書データベース」の立ち上げと公開
- 2001 (H 13) 「評価情報開発室」設置 (専任助教授1名、助手1名)
- 2003 (H 15) 「自己点検・評価関連情報システム」の入力開始
- 2004 (H 16)
- ・「自己点検・評価情報関連システム」と一元化する形で「教員の研究教育活動等報告書データベース」の公開を開始
 - ・法人化を機に、「評価情報開発室」を改組し「大学評価情報室」を設置 (専任助教授1名、助手2名)
 - ・「自己点検・評価関連情報システム」の名称を「大学評価情報システム」に変更
 - ・「教員の研究教育活動等報告書データベース」の英文版を公開
 - ・公開されているデータベースの名称を「九州大学研究者情報」に変更
- 2005 (H17) 「研究者情報」としての公開項目の拡充。必須入力項目の拡大。教員業績評価 (個人評価) への活用について検討開始。

1. 経緯と現状

大学評価情報室の活動の柱

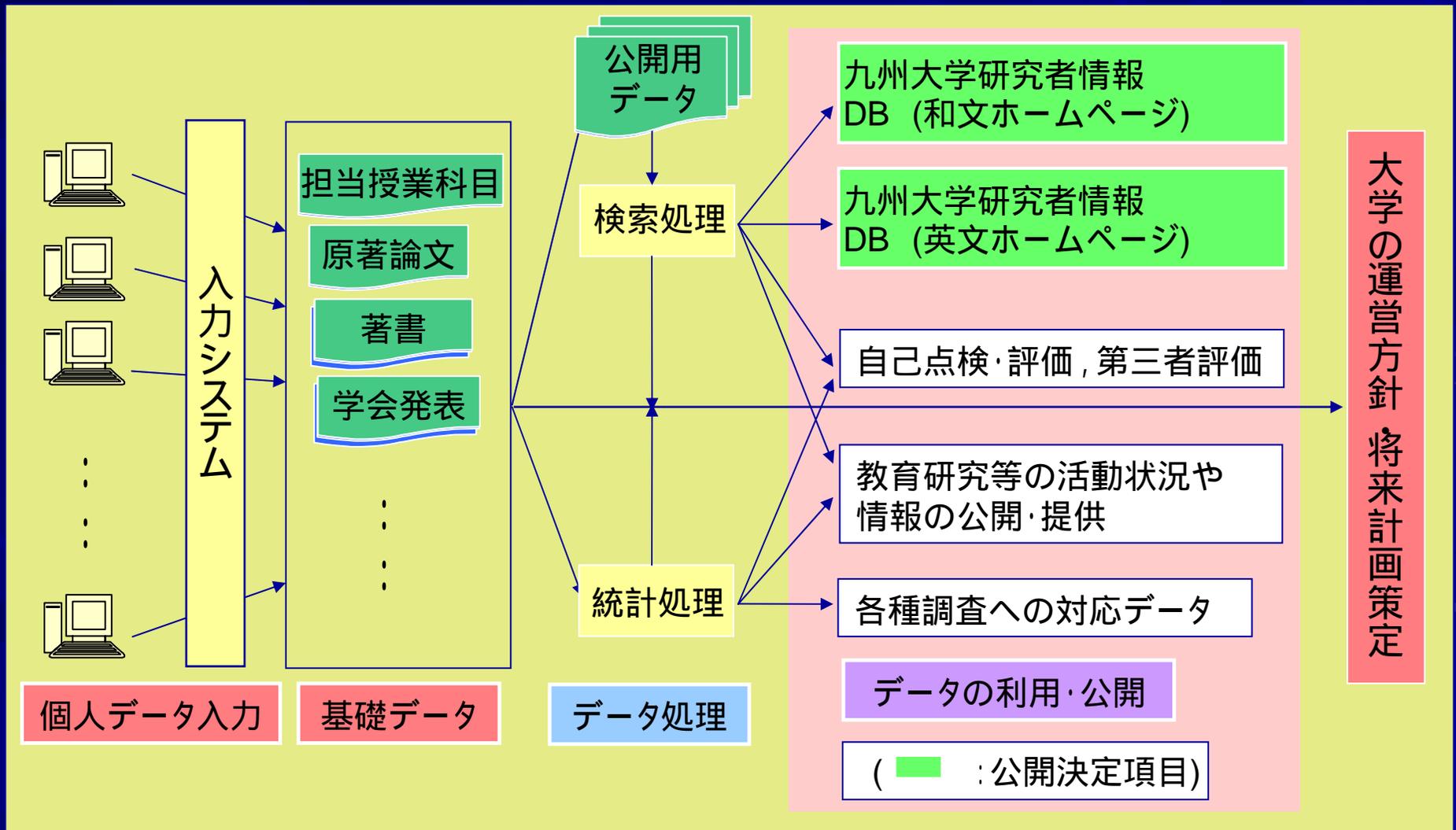
データベースの開発と改良

先行データベースの活用：出力形態の吟味が後発、ただし、早期立ち上げの結果、データ入力に教員がなれる時間が確保できた

評価指標の研究・開発：第三者評価への対応ばかりでなく、マネジメント情報として活用することも意識

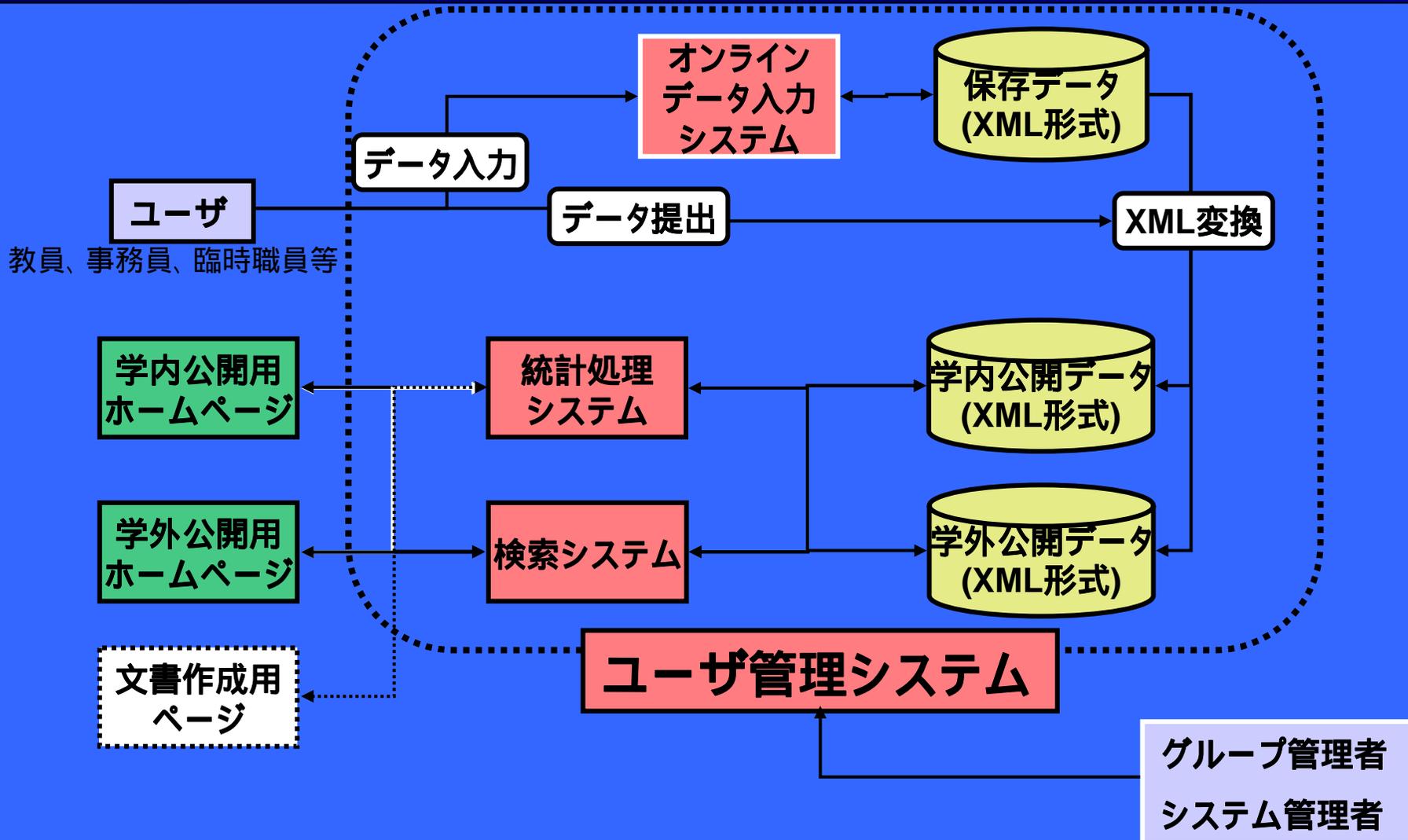
2. データベースシステムの概要

(1) システムの概念図



2. データベースシステムの概要

(2) システムの構成図



2. データベースシステムの概要

(3) システムの特徴

- 公開システムは業者発注だが、それ以外は独自開発
- 評価をめぐる状況変化に対して柔軟な対応が比較的容易

2. データベースシステムの概要

(4) 入力項目例(研究)

番号	項目	HP用	
		和文	英文
II-1.	主な研究テーマ		
II-2.	従事しているプロジェクト研究		
II-3-1a	学会発表等		
II-3-1b	学会・研究会における座長等	-	-
II-3-2.	原著論文		
II-3-3.	著書		
II-3-4.	総説、論評、解説、書評、報告書等		
II-3-5.	作品・ソフトウェア・データベース等		
II-3-6.	特許出願	-	-
II-4-1.	所属学協会	-	-
II-4-2.	学協会役員等への就任	-	-
II-4-3.	学会大会・会議・シンポジウム等における役割	-	-
II-4-4.	学会誌・雑誌・著書の編集への参加状況	-	-
II-4-5.	学術論文等の審査	-	-
II-5.	研究活動に関する情報の公開	-	-
II-6.	海外渡航状況、海外での教育研究歴	-	-
II-7.	受賞	-	-
II-8.	外国人研究者等の受入れ状況	-	-
II-9.	その他の優れた研究業績	-	-

研究面での個別教員の動向がかなり詳細に把握できる

教育面では他のデータベースなどとの連携が必要(認証評価対応等)

(5) 公開の指針

- (1) 本学のあらゆる取組の根本規範は教育憲章と学術憲章であり、あらゆる取組の基本的目的は本学の長期ビジョンがめざしている理念の実現である。
- (2) 情報の公開により社会に対する説明責任を果たすことで大学に対する社会の理解と支援を確保すること、および、情報の公開を介して社会に積極的に働きかけ社会との連携・協力を促進することは、上記の根本規範が要請するところであり、また、本学の理念の実現に不可欠である。
- (3) 個人情報の保護や大学および大学構成員の知的財産権等の保護に十分に留意しつつ、大学に関連する情報全般を最大限公開し、それによって社会との連携・協力を促進することは、大学の責務であるとともに、大学のさらなる活性化に必要不可欠である。
- (4) 「大学評価情報システム」に集積された情報の公開は、こうした必要に応えるための多様な方策の一つとして位置づけられる。したがって、教員の諸活動を集積した本システムの情報は、中期計画の進行状況、自己点検・評価や第三者評価等の評価結果、財務諸表等、大学の多様な諸活動に関する情報とともに、積極的に公開する必要がある。
- (5) 「大学評価情報システム」の情報公開については、他の情報公開とともに、公開する項目の選択や拡充等に関して、学内外の状況変化に柔軟に対応し、不断に改善を図る必要がある。

(6) 公開画面

<http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/>

九州大学 研究者情報

印刷用ページ

データ更新日: 2005.09.30

教員氏名	: 梶山 千里 かじやま ちさと
所属名	: 総長
職名	: 総長
現役職名	: 総長
ホームページ	: http://www.kyushu-u.ac.jp/president/president-room/ 九州大学HP「総長室から」へのリンク
電話番号	: 092-642-2100
FAX番号	: 092-642-4236
取得学位	: Ph. D. (マサチューセッツ大学, 1969)、工学博士(九州大学, 1975)
専門分野	: 高分子化学

項目一覧

- [研究・教育・社会活動概要](#)
- [研究のキーワード](#)
- [所属学会名](#)
- [研究業績](#)
- [研究資金](#)
- [社会貢献・国際連携等](#)

研究・教育・社会活動概要

< 研究概要 >

1. 高分子固体表面の凝集構造と分子運動特性

固体の表面はバルクとは異なったエネルギー状態にあり、高分子の表面凝集状態と分子運動特性はバルクと著しく異なっている。本研究室では高分子単分子膜、高分子固体膜、ポリマーブレンド及びブロック共重合体薄膜の表面分子鎖凝集状態制御と表面分子運動特性評価を中心に積極的に研究を展開している。走査型粘弾性顕微鏡を試作し、膜表面の動的粘弾性関数を直接評価し、表面の分子運動特性がバルクに比べて活性化されていることを世界で初めて明らかにした。この知見は機能性有機材料の分子設計に全く新しい概念を与える成果である。

研究のキーワード

高分子の構造と物性,有機超薄膜構造,生医学材料,固体表面分子運動特性,走査型粘弾性顕微鏡,(高分子/液晶)複合膜,電気光学材料,疲労機構,分子レベルでの構造制御

所属学会名

高分子学会(会長, 2000-2002)
日本レオロジー学会(会長, 1999-2000)
日本液晶学会(副会長, 1998-1999)
日本MRS(会長, 1998-1999)
日本化学会
繊維学会
アメリカ化学会
アメリカ物理学会

研究業績

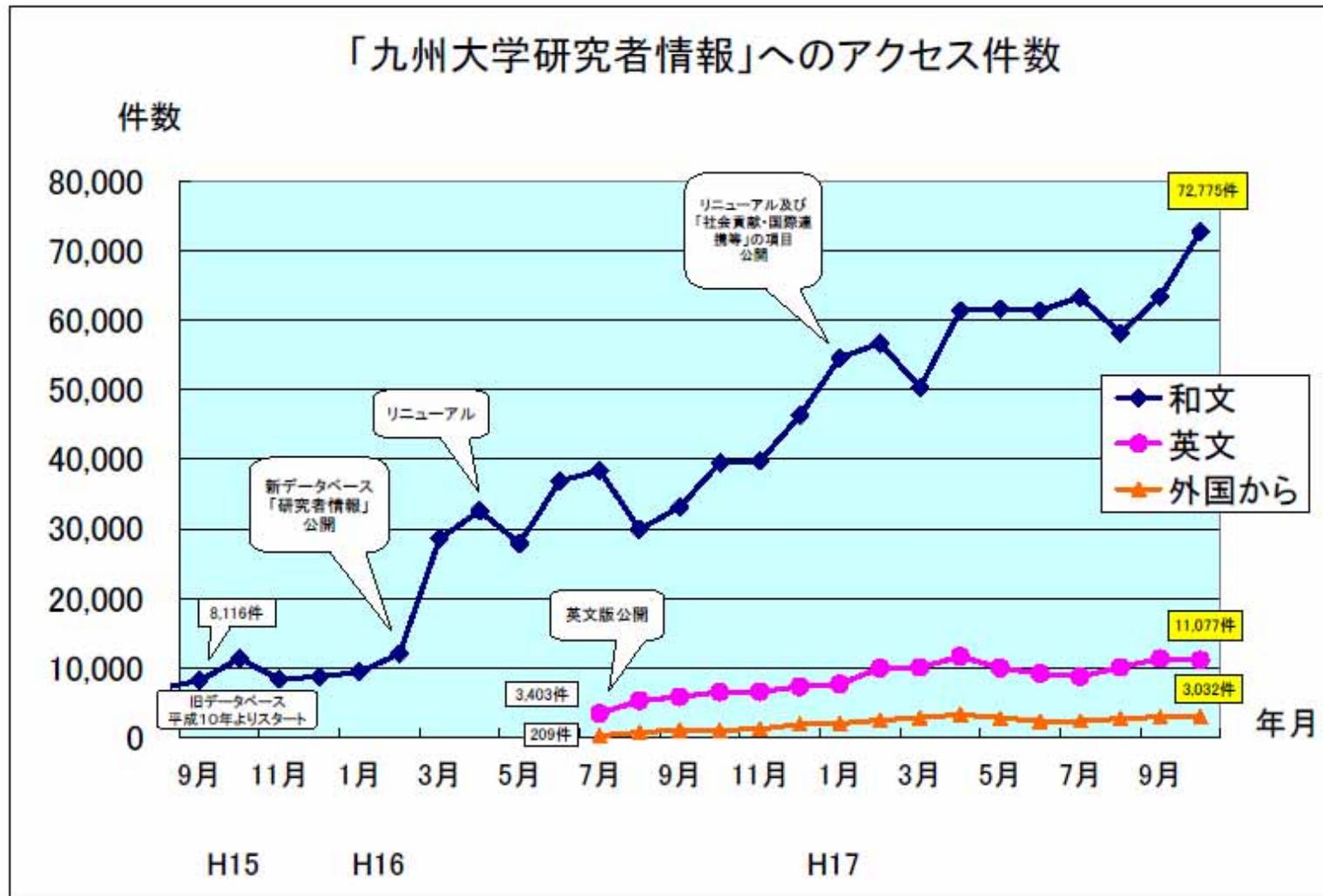
● 主な研究テーマ

1. 無欠陥・大面積単分子膜、LB膜の構築法の確立。
2. 分子複合材料の開発。
3. 非線型粘弾性解析に基づく疲労破壊規準式の確立。
4. 単分子膜、LB膜の分子デザインと機能化。
5. 多相系生医学材料の開発。
6. 高分子表面の分子(液晶、脂肪酸、シラン系)配向解析。
7. 高分子固体表面の動的粘弾性解析。
8. (高分子/液晶)複合膜の選択分離機能と電気光学効果。

● 原著論文

1. Segmental Motion in Polystyrene Thin and Ultrathin Films Based on Dynamic Viscoelastic Measurement
K. Akabori, K. Tanaka, T. Nagamura, A. Takahara, T. Kajiyama, *Trans. Mat. Res. Sci. Japan*, vol.29, pp.217-220, 2004.
2. Influence of annealing treatment on the Adhesion of Poly(butylene terephthalate) and its Interfacial structure
T. Izumi, R. Narita, K. Tanaka, A. Takahara, T. Kajiyama, *Trans. Mat. Res. Sci. Japan*, vol.29, pp.229-232, 2004.
3. Crystal Structure in the Near-Surface Region of Melt-Crystallized Polyethylene Films Investigated by Grazing Incidence X-ray Diffraction
H. Yakabe, S. Sasaki, O. Sakata, A. Takahara, T. Kajiyama, *Trans. Mat. Res. Sci. Japan*, vol.29, pp.251-254, 2004.
4. Characterizations and Surface Wettability of Fluorinated Block Copolymers Synthesized by Atom Transfer Radical Polymerization

(7) アクセス状況



3 . データベースシステムの運用

(1) 入力促進のための方策

- ・ 入力率を学内傾斜配分の基準に採用
- ・ 年2回自由記述欄の打ち出しを部局毎に行い配布する
- ・ グループ管理者の配置

3 . データベースシステムの運用

(2) 研究戦略上の活用

研究戦略室との連携

スーパースター・プログラム

外部資金獲得状況(不採用分も含む)の全学的把握

マネジメント情報

4. 今後の展開と課題

- 教員業績評価への活用
- 部局の活動における特徴の把握
- 公開・評価等のための統計システムの活用
や出力形態の開発
- 学内の他のデータベースとの連携について
検討

ご静聴ありがとうございました